

科目名	基礎看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義		1	1年 通年	
担当者	阿部 喬子	資格	看護教員	実務 経験	有・無	時間	30 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護に含まれる基本的概念と保健医療福祉の中で看護の果たす役割について理解し、自己の看護観形成の基盤をつくる。</p> <p>看護の定義、変遷、主要な看護倫理について理解し、看護とは何かについて考える。</p> <p>看護の構成要素の定義とそれらの関連を学び、看護における対象のとらえ方と援助の概要を理解する。さらに看護の機能と役割、保健医療福祉チームの多職種連携・協働、倫理について概観的に理解する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何かを知り、理論の必要性について理解し説明できる。 2. 世界およびわが国の看護の発展の歴史の変遷について説明できる。 3. 看護の専門性、看護の特性と役割について説明できる。 4. 看護の対象としての人間を理解し説明できる。 5. 患者の権利、人間の尊厳の重要について理解できる。 6. 倫理原則および看護者の倫理綱領について、その意味を説明できる。 7. 看護の継続性と多職種との連携・協働の重要性を説明できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><阿部喬子></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の本質 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の原点 2) 看護の語源 3) 看護の要素 2. 看護の歴史の変遷、職業としての看護、看護の動向 3. 職業としての看護、これからの看護 4. 看護職者の定義、看護職の養成制度と就業状況、養成制度の課題 5. 国際看護師協会（ICN）の定義、日本看護協会（JNA）の定義、看護理論 6. 看護理論 - 各理論家の定義 7. 保健医療システム、チーム医療 8. 看護の機能と役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の機能 2) 看護活動 9. 看護の対象としての人間の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 統合体としての人間 2) 人間と環境 10. 看護の対象としての人間の理解 11. <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間と環境 2) 生活の看護 3) QOL 看護を必要とする人 12. 看護の社会的役割 看護過程 13. 看護倫理、専門職としての倫理への取り組み 14. 倫理的問題と看護実践 15. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 よくわかる看護職の倫理綱領 照林社 [電子版]</p>							

参考書

- F. ナイティンゲール 看護の覚え書き - 本当の看護とそうでない看護 - 医学書院 [電子版]
V. ヘンダーソン 看護の基礎となるもの 日本看護協会出版会 [電子版]

成績評価方法

筆記試験及び課題レポートにより評価する

科目名	看護の共通基本・日常生活援助技術	必修	選択		授業形態	単位数	開講時期	
					講義・演習	2	1年 通年	
区分	専門分野							
担当者	藤原春菜	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	30 / 45時間	
担当者	阿部 喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	11 / 45時間	
担当者	岡崎弘美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	6 / 45時間	
授業の目的・ねらい 各診療技術の意義と方法が説明でき、根拠に基づきながら実践できる能力を養う。診療に伴う患者の心理を理解でき、実践時、思いやりのある配慮ができる態度を養う。 また、何にでも疑問をもち、自らそれを解決する問題解決能力を養う。 看護実践の基礎となる能力を身につける。								
学生の到達目標 1. 共通基本技術、日常生活援助技術各々の概念、方法について説明できる。								
授業概要（授業計画） 共通基本技術 <藤原春菜> 1. 看護技術とは 1) 看護技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 4) 看護技術を適切に実践するための要素 2. ~ 3. コミュニケーション 1) コミュニケーションとは 2) 医療におけるコミュニケーションの目的 3) コミュニケーションの基本的態度 4) 効果的コミュニケーションの技法 4. 観察 1) 観察とは 2) 観察を成立させるもの 3) 観察の種類 4) 観察の方法 5) 観察時の留意点 記録・報告 1) 看護記録とは 2) 看護記録の目的 3) 看護記録の構成要素 4) 記録時の留意点 5. 安全・感染防止 1) 感染とは 2) 予防策 3) 手指衛生 4) 抗菌性石けんと流水による手洗いの方法 5) 擦拭消毒用アルコール製剤を用いた手指消毒の方法 6. 安楽 1) 安楽とは 2) 援助の種類 3) ポジショニングの方法 4) マッサージ・指圧の方法 <阿部喬子> 7. 身体測定 1) 身体計測とは 2) 計測の種類 3) 身長計測の目的と方法 4) 体重計測の目的と方法 5) 皮下脂肪厚計測の目的 6) 腹囲計測の目的と方法 7) 計測時の留意点 8. 終講テスト・まとめ 日常生活援助技術 <岡崎弘美> 1. ~ 2. 環境 1) ベッドメイキング 2) 環境整備 3) リネンの交換								

<藤原春菜>

3.～6.清潔

- 1)清潔とは 2)清潔援助時のアセスメント
- 3)入浴の援助方法 4)全身清拭の方法
- 5)陰部洗浄の方法 6)洗髪の方法
- 7)手浴足浴の方法 7)口腔ケアの方法

7. 衣生活

- 1)衣生活の意義 2)療養に適した寝衣 3)アセスメント
- 4)寝衣交換の方法 2)寝衣交換時の留意点

<阿部喬子>

8.～9.食事

- 1)食事の意義 2)経口的食事におけるアセスメント
- 3)経口的食事の援助方法 4)留意点

10.～11.排泄

- 1)排泄の意義 2)排泄のアセスメント
- 3) 床上排泄の援助
①尿器での介助 ②便器での介助 ③おむつ交換
- 4) ベッドサイドでの排泄の援助
①ポータブルトイレでの排泄の介助

12.～13.姿勢・活動

- 1)姿勢・活動とは 2)姿勢・活動のアセスメント
- 3)ボディメカニクスとは 4)姿勢・活動の援助とは 5)体位変換の方法
- 6)車椅子移乗、移送の方法 7)ストレッチャー移乗・移送の方法

14. 睡眠・休息

- 1)睡眠・休息とは 2)睡眠・休息のアセスメントとは
- 3)睡眠・休息の援助

15. 終講テスト・まとめ(各教員ごとに試験あり)

教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
基礎・臨床看護技術 医学書院

参考書

その都度紹介

成績評価方法

終講試験 課題レポート 授業態度

科目名	フィジカルアセスメント	必修	授業形態			単位数	開講時期
区分	専門分野		選択	講義・演習			1
担当者	藤原春菜	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	田淵正実	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>各技術の意義と方法が説明でき、根拠に基づきながら実践できる能力を養う。診療に伴う患者の心理を理解でき、実践時、思いやりのある配慮ができる態度を養う。 また、何にでも疑問をもち、自らそれを解決する問題解決能力を養う。 看護実践の基礎となる能力を身につける。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <p>1. TPR, 血圧測定、フィジカルアセスメントの方法について理解し、実施できる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><藤原春菜></p> <p>1.～7. バイタルサインの観察</p> <p>1)バイタルサインとは 2)体温のアセスメント測定方法 3)脈拍のアセスメント測定法 4)呼吸のアセスメント測定方法 5)血圧のアセスメント測定法 6)意識のアセスメント測定方法</p> <p><田淵正実></p> <p>7.～14. 系統別のフィジカルアセスメントの技術</p> <p>1)フィジカルアセスメントとは 2)呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的と実際 3)循環器系のフィジカルアセスメントの目的と実際 4)腹部のフィジカルアセスメントの目的と実際</p> <p>15. 終講テスト・まとめ(各教員ごとに試験あり)</p>							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院 フィジカルアセスメント ガイドブック 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>その都度紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>終講試験 課題レポート 授業態度</p>							

科目名	看護で行う診療の補助技術	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義・演習			1	1年 後期	
区分	専門分野							
担当者	西川紀恵	資格	元看護教員	実務経験	有・無	時間	23 / 30時間	
担当者	岡崎弘美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	7 / 30時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>各診療・与薬技術の意義と方法が説明でき、根拠に基づきながら実践できる能力を養う。診療・与薬に伴う患者の心理を理解でき、実践時、思いやりのある配慮ができる態度を養い、看護実践の基礎となる能力を身につける。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 診療の補助技術各々の概念、方法について説明できる。</p>								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>診療援助技術 <西川紀恵></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.～2. 滅菌と消毒 滅菌と消毒の意義と方法、感染予防の意義と区別、院内の感染とその予防 3.～4. ME機器 ME機器の種別と原則、ME機器使用におけるナースの役割と援助 5.～6. 診察 診察の場面における看護の意義と役割、診察の介助と援助 7.～8. 検査 検査における看護師の役割、検査を受ける患者の介助と援助 検体の採取方法（尿・便・喀痰・血液・消化液） 9.～10. 包帯法 包帯法の意義と実際 11. 酸素療法 酸素吸入の意義と機械・器具、酸素吸入の方法 12. テスト・まとめ <p><岡崎弘美></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.～2. 栄養療法 栄養療法の種類、経管栄養法の意義 アセスメント、経鼻経管栄養の方法 3. 浣腸 浣腸の種類、グリセリン浣腸の意義、アセスメント、グリセリン浣腸の方法 4. テスト・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院</p>								
<p>参考書</p> <p>その都度紹介</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>終講テスト、技術演習、授業態度、出席状況などにより評価する。</p>								

科目名	看護で行う与薬法	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習				
区分	専門分野	選択				1	2年 前期
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>各診療・与薬技術の意義と方法が説明でき、根拠に基づきながら実践できる能力を養う。診療・与薬に伴う患者の心理を理解でき、実践時、思いやりのある配慮ができる態度を養い、看護実践の基礎となる能力を身につける。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 診療の補助技術各々の概念、方法について説明できる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>診療援助技術 与薬 <越智恵美子></p> <ol style="list-style-type: none"> 与薬とは 安全に予約するための確認方法 - 指差し呼称 6Rの確認 与薬時のアセスメント 経口与薬とは 経口与薬の方法 - 1) 内服薬 2) 口腔内服 外用薬与薬とは 外用薬与薬の方法 - 1) 吸入 2) 点眼 3) 点鼻 4) 点耳 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬 テスト・まとめ 							
<p><木谷有紀></p> <ol style="list-style-type: none"> 注射とは ～4. 注射の方法 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉注射 4) 静脈内注射（ワンショット、点滴静脈注射） 輸血とは 輸血方法 テスト・まとめ 実技演習 - 筋肉内注射 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>その都度紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>終講テスト、技術演習、授業態度、出席状況などにより評価する。</p>							

科目名	看護で行う指導・侵襲を伴う技術	必修	授業形態			単位数	開講時期
			選択	講義・演習			
区分	専門分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	曾根みゆき	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>各診療技術の意義と方法が説明でき、根拠に基づきながら実践できる能力を養う。診療に伴う患者の心理を理解でき、実践時、思いやりのある配慮ができる態度を養う。 また、何にでも疑問をもち、看護実践の基礎となる能力を身につける。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の補助技術、各々の概念方法について説明できる。 2. 日常生活の援助技術、診療の補助技術を提供する際共通して必要となる指導技術の概念・方法について説明できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>診療援助技術 ＜木谷有紀＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.～2. 吸引 一時的吸引とは - アセスメント、口腔・鼻腔内吸引の方法 気管吸引の方法 持続吸引とは - アセスメント、胸腔ドレナージの方法 3.～4. 胃洗浄 胃洗浄とは - アセスメント、胃洗浄の介助方法 5.～6. 心肺蘇生法とは - アセスメント、気道確保の方法、胸部圧迫の方法 人工呼吸の方法、AEDによる除細動の方法 7. 導尿 導尿とは - アセスメント、一時的導尿の方法、持続的導尿の方法 女性・男性 8. 終講試験・実技演習 <p>指導技術 ＜曾根みゆき＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者教育の意義 2. 教育・指導の基本的進め方 3.～4. 個人・集団を対象とする指導の実際 5.～6. 指導案の作成 指導教材の作成 7. 指導案・指導教材の評価 8. 終講試験・実技演習・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>坪井涼子・松田たみ子著 「考える看護技術Ⅱ」 廣川書店</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>終講テスト・提出物・授業態度・出席状況などにより評価する。</p>							

科目名	看護過程と展開	必修 選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習		1	2年 前期	
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 45時間
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30 / 45時間

授業の目的・ねらい

看護は患者の健康状態をより高めるためにある。患者の理解や援助を間違えると、患者のより高い健康状態を望めない。患者の全体像を把握し、根拠をもって援助することが重要になる。そのための手段として看護過程がある。

本授業では、講義・事例演習を通して看護過程の意義とプロセスの理解を目指す。これに際しては自ら疑問をもち、解決する姿勢を養う。それらにより、看護実践の基礎となる能力を身につける。

学生の到達目標

1. 原則に基づく技術を個に応じた看護実践に結びつけるプロセスを説明できる。

授業概要（授業計画）

<越智恵美子>

1. 看護過程の概要
 - 1) 看護過程の歴史的変遷
 - 2) 看護過程の意味
 - 3) 看護過程の構成要素
2. アセスメント
 - 1) アセスメントの構造
 - 2) アセスメントの方法
3. アセスメントの実際
 - 1) 事例を用いてアセスメントを行う
4. 看護診断
 - 1) 看護診断の意味
 - 2) 看護診断の種類
 - 3) 看護診断の方法
5. 計画
 - 1) 計画の構成
 - 2) 目標の設定
 - 3) 計画の立案
6. 実施
 - 1) 実施の構成
 - 2) 実施の調整方法
 - 3) 実施の方法
 - 4) 記録の方法
7. 評価
 - 1) 評価の構成
 - 2) 目標達成の評価方法
 - 3) 計画の評価、修正
8. 終講テスト・まとめ

<木谷有紀>

9. ~22. 演習

事例を用いた看護過程の展開

事例： 変形性膝関節症 人工膝関節置換術 回復期

教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院
看護診断 ハンドブック 第11版

参考書

坪井良子・松田たみ子 「考える基礎看護技術 I」 医学書院
江川隆子 「かみくだき看護診断」 日総研
黒田裕子 「わかりやすい看護過程」 照林社

成績評価方法

終講試験・課題レポート・授業態度・出席状況などにより評価する。

科目名	経過別・症状別看護	必修	授業形態			単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習			1	2年 前期	
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>健康障害のある対象とその家族を理解し、状態に応じた看護を学ぶ。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象者について様々な視点でとらえ、健康上のニーズについて説明できる。 2. 動的な健康状態についての特徴・対象のニーズ、看護援助の特徴について説明できる。 3. 主要な症状を示す対象者のニーズ、看護について理解できる。 4. 治療・処置を受ける看護について説明できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護 2. 健康の維持・増進を目指す看護 3. 急性期における看護 4. 周手術期・集中治療を受ける対象への看護 5. リハビリテーション期における看護 6. 慢性期における看護 7. 終末期における看護（臨死期・死亡時の看護） 8. ～10. 主要な症状を示す対象への看護 （呼吸・循環・栄養や代謝・排泄・活動や休息・認知や知覚・コーピング・安全や生体防御機能、安楽） 11. ～12. 放射線療法を受ける対象への看護 化学療法を受ける対象への看護 創傷処置・ケアを受ける対象への看護 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象への看護 13. ～14. DVD学習（レポートあり） 15. 終講試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 ナースンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版</p>								
<p>参考書</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>終講試験・課題レポート・授業態度・出席状況などにより評価する。</p>								

科目名	看護研究	必修	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		選択	講義・演習		1	2年 後期
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護の専門的責務は「人類により良いケアサービスを提供すること」である。看護における研究は、人間の健康管理に焦点を当て、生活者として対象をとらえ、環境との相互関係における包括的な人間としての研究であるという特徴を持つ。看護の実践者として、看護サービスについての研究は必須である。学生は看護研究の概要を学び、理論と実践の結合をはかり、研究態度を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義・必要性について説明できる。 2. データの質的処理の基本を説明できる。 3. データの量的処理の基本を説明できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>看護研究 <阿部喬子></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意味と目的 2. 看護研究の倫理的規約と具体的方法 3. 看護研究の具体的方法 4. プレゼンテーションとその方法 5. ケーススタディのまとめ方 6. 上級生のケーススタディ発表の聴講 7. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 自作資料</p>							
<p>参考書</p> <p>黒田裕子 黒田裕子の看護研究 step by step 第5版 学研 松本孚・森田夏美 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>終講試験・課題レポート・授業態度・出席状況・評価表に基づくケーススタディの評価などにより評価する。</p>							

科目名	研究の実施と結果の発表	必修	授業形態			単位数	開講時期
区分	専門分野		講義・演習			1	3年 前期
担当者	ケーススタディ担当者	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>ケーススタディへの取り組みを通して事例と向き合い、考える力を養うことで、研究のための地盤をつくる。また発表を通し、評価を受けて新たな研究の視点を見つけたり、自己の学習課題を探る。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 受け持ち患者の援助を振り返り、ケーススタディをまとめることができる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>ケーススタディ <ケーススタディ担当者> 1. ケーススタディの実施 2. ケーススタディの発表</p>							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 自作資料</p>							
<p>参考書</p> <p>黒田裕子 黒田裕子の看護研究 step by step 第5版 学研 松本学・森田夏美 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>終講試験・課題レポート・授業態度・出席状況・評価表に基づくケーススタディの評価などにより評価する。</p>							

科目名	基礎看護技術演習	必修	授業形態			単位数	開講時期
区分	専門分野		選択	講義・演習			1
担当者	藤原春菜	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	24 / 45時間
担当者	岡崎弘美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	8 / 45時間
担当者	西川紀恵	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	7 / 45時間
担当者	田淵正実	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	4 / 45時間

授業の目的・ねらい

看護における基本的援助技術を学び、その方法と根拠を理解し、確実な看護技術を身につける。
 ここでは、基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱで学習した共通基本技術や日常生活援助技術、診療に伴う援助技術について演習し、対象者の安全・安楽・自立を目指した看護技術を提供できるようになる。

学生の到達目標

1. 原理法則に基づいた看護技術を実演できる。
2. 対象者に倫理的配慮ができる。

授業概要（授業計画）

共通基本技術

1. 手洗い

日常生活援助技術

1. ベッドメイキング
2. 全身清拭・寝衣交換
3. 洗髪
4. 臥床患者の食事介助、口腔ケア
5. 便器・尿器の挿入
6. 体位変換
7. 車椅子、ストレッチャーの移送
8. 冷罨法

フィジカルアセスメント

1. 体温、脈拍、呼吸測定
2. 血圧測定
3. 系統別フィジカルアセスメントの技術
4. 身体測定 <阿部喬子>

診療に伴う援助技術

1. 包帯法
2. 酸素吸入
3. 無菌操作
4. 経管栄養
5. 浣腸

教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 基礎・臨床看護技術 医学書院

参考書

坪井良子・松田たみ子 「考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」 医学書院
 江口正信他著 「根拠から学ぶ基礎看護技術」 医学芸術社

成績評価方法

技術項目について、評価表に基づき評価する。
 記録物の提出状況などのより、評価する。